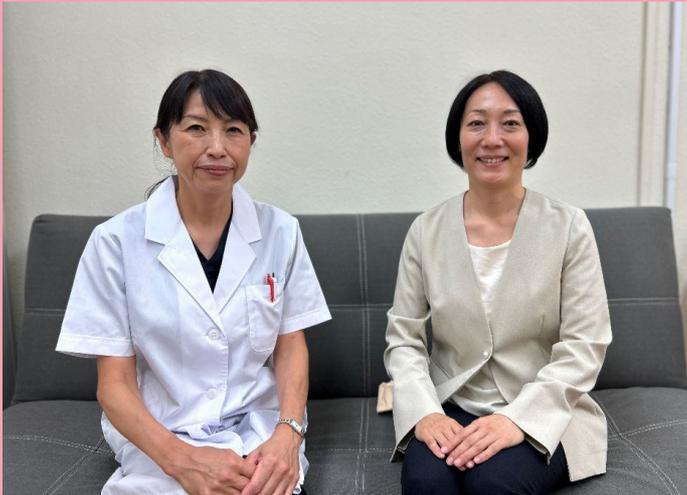


ダイバーシティ担当 菊池理事が行く！ ー保健管理センター 布施センター長編ー

2024/01 vol.28



布施保健管理センター長

菊池理事

昨年度より各学部・機構のダイバーシティについてお伺いしている、菊池理事が行く！シリーズ今回は保健管理センターの布施センター長にダイバーシティについてのお話を伺ってまいりました。



あらためて
保健管理センターは、



医師と看護師、事務スタッフ、カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）が在籍しています。

業務としては、健康診断に関することや、体調不良時や怪我等の初期対応を行っています。また、からだの健康相談・こころの健康相談、産業医として教職員への対応もしています。

体組成計や血圧計は、自由に利用することができます。

先生は精神科の医師でいらっしゃいますね
医師の世界から見たダイバーシティについて教えてください。

私自身、以前女性エンパワーメント支援制度を利用したことがあります。出産・育児を経験した日本の女性精神科医が医師として活動するための対処行動とニーズに関する調査を行いました。

以前は、精神科医の世界では、基本的に男女の差はあまり大きくないと考えていました。意思決定機関のダイバーシティが進んでいないということ、その為、特定分野の研究が膠着してしまうなど、それによる弊害が起こっていることがわかってきています。このことは、大学におけるダイバーシティでも同じかもしれませんね。ダイバーシティが進むことで、膠着していたことが、前に進んだり可能性が広がったりすることに繋がると思います。

最近では、以前に比べると、女性の医師を多く見るように感じていましたが、医師の世界でも、ダイバーシティの課題がまだまだあるのですね。

COVID-19の影響で、どんなことが変わりましたか。

日々接して、一対一で話している学生については、大きく変わった感じはしません。ですが、ここ数年コミュニケーション時間や質が激変した中で生活してきた学生達が、これから社会に出て、どうなるのだろうと心配しています。大学で学び経験できることは、勉強以外に沢山ありますが、それらが大幅薄まってしまって、そのことで、今後なんらかの影響がでてくるのではと考えられます。

あと、予想はされていたことですが、学生の自殺率は、跳ね上がっています。**経済的な困窮と孤立は大きなリスク要因**ですが、COVID-19は、その両方が重なってしまいました。戻るには時間がかかることが予想されます。



社会や、大学の中で、様々な事が効率的に進んだと捉えられる面もありますが、ネガティブな影響としては、やはり人と人とのリアルなコミュニケーションが薄くなってしまっているということですね。



特に私達の科(精神科)は、**非言語情報を得て受け取る、伝える部分**も大きいので、オンラインで作れる関係性と対面で作れる関係性は全然違いますね。それでも、オンラインで面談ができるようになって、これまではアプローチできなかった人にも会話の糸口ができる、受診のハードルが下がったことは良かった点でもあります。家から、部屋から出ることができない人についても**オンラインなら診察ができる**ようになりました。

受診のハードルが下がったという点は、ポジティブな影響ですね。

自分のことを伝える時、誰かを理解する時に、コミュニケーションは大切ですが、良い事だけでなく、難しいという事もありますよね。

コミュニケーションをとるといことは、ある程度自己開示が必要だけれど、それってリスクを伴いますよね。失敗すると傷つくこともありますし、相手から必ずしもいい反応が返ってくるとは限りません。浅い傷であれば、その後に向けての前向きなエネルギーに変えられることもあるけれど、深い傷になってしまつとなかなか修復するのも難しいです。

学生にはよく**「世界をひとつにしない方がよい、二つ以上の世界を持った方がよい」**という話をするんです。その人にとって世界が一つしかない、そこでうまくいかなかった時、本当に辛いし絶望してしまうと思います。でも、世界が二つ以上あれば、ひとつがうまくいなくて苦しい時でも、別の世界があるから大丈夫なんです。

「世界をひとつにしない」というお言葉、とても心に響きます。色々な世界を通して生きている喜びを感じていきたいですね。



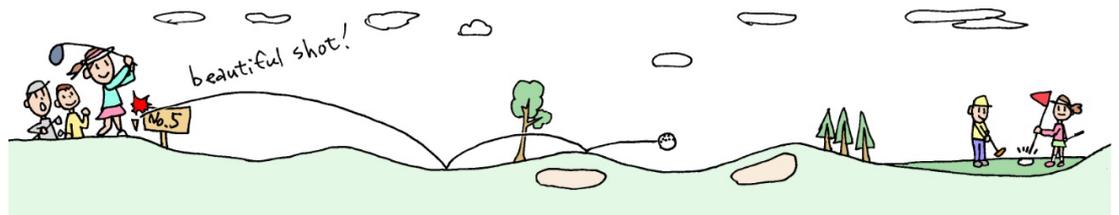


ホッとする時間はどんな時ですか



家族の存在と、ゴルフが大きいですね。
 ゴルフのプレー中は、100%目の前の球や、プレーのことに集中します。屋外の広々とした場で活動できるというのも、
一旦考えがリセットされる。**ほっとする時間**です。
 家族でゴルフをすることもあるので、ゴルフ場を往復する間の車の中で話しをしたりするのも、リラックスする時間でもあります。

それはとても素敵な時間ですね。先生の中にも、医師、研究者、ご家族との時間や、そしてゴルフを楽しまれるなど、カラフルな世界があるんですね。



ダイバーシティ推進室へのご要望等ありますか

学生や若い世代への発信をして欲しいなどと思います。茨城という少しコンサバな土地柄もあるのか、調査などをしていると、まだ性別によりそれぞれに求めることが違うように感じます。

性別の枠に押しつぶされないように、みなさんそれぞれにとって希望に満ちた学生生活、人生になって欲しい。そのためには、自分のことを大切にすると同時に自分のパートナーも大切にしたいと思っています。

頭ではわかっているけども、**意識を変えるのは難しい**もの、学生向けのイベントなどで働きかけていけるといいですね。

あとは、**LGBTQ+**についても各大学での取組が保健管理センターの会議のトピックになったりもしています。そのあたりも今後情報共有していきたいですね。



ありがとうございます。ぜひ、保健管理センター・バリアフリー推進室・ダイバーシティ推進室でも連携しながら、学内での多様性を深めていきたいです。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

